

景観構成重要木保全更新実施計画(案)について

1. はじめに

・洗足池公園は平成31年3月に都の名勝に指定され、これを受けて令和3年6月に「名勝洗足池公園保存活用計画」を策定しました。保存活用計画における目標像の実現に向けて、景勝地としての景観を保存していくため、景観を構成する重要な要素である樹木について更新計画(※)を作成します。

※「更新」とはここでは「伐採+植栽」、つまり新しい樹木への交換を更新と呼びます。

2. 現状の樹木

・令和2年度に洗足池公園内に現存する樹木の基本情報を把握するため、樹木調査を実施しました。
 ・その結果、洗足池公園には95種1300本の樹木が現存することがわかりました。

洗足池公園に現存する樹種一覧

針葉樹 8種	常緑樹 31種		落葉樹 56種	
イチイ	アラカシ	ボダイジュ	アカメガシワ	センダン
イヌマキ	ウバメガシ	ホルトノキ	アオギリ	トウカエデ
クロマツ	カンキツ	マテバシイ	アカシデ	トチノキ
サウラ	カクレミノ	モッコク	アメリカデイゴ	ナンキンハゼ
チャボヒバ	キンモクセイ	モチノキ	アキニレ	ヌルデ
ヒマラヤスギ	キョウチクトウ	ヤマモモ	イヌコリヤナギ	ノムラモミジ
メタセコイア	クスノキ	ユズリハ	イヌシデ	ハクウンボク
モミ	クロガネモチ	シュロ	イチョウ	ハナカイドウ
	サンゴジュ		イロハモミジ	ハゼ
	シキミ		ウメ	ハナミズキ
	シラカシ		エゴノキ	ハナモモ
	シロダモ		エノキ	ハンノキ
	スダジイ		エンジュ	ヒメリンゴ
	セイヨウベニカナメモチ		オニグルミ	フヨウ
	ソヨゴ		カキ	プラタナス
	タブノキ		カツラ	ポプラ
	ツバキ		カロリナポプラ	マユミ
	トウネズミモチ		クヌギ	ミズキ
	ネズミモチ		グミ	ミズナラ
	ヒサカキ		ケヤキ	ムクノキ
	ヒイラギモクセイ		コナラ	ムクゲ
	ピラカンサ		コブシ	ムラサキシキブ
	ビワ		サクラ	モミジ
			ザクロ	ヤマグワ
			サルスベリ	ヤマボウシ
			シダレウメ	ヤマモミジ
			シダレザクラ	コブニレ
			シダレヤナギ	コゴメヤナギ



図1. 景観上特徴的な樹種と主な樹木の分布



景観構成重要木保全更新実施計画(案)について

3. 保全更新計画 (案)

(1) 景観構成重要木の設定

- ・ 保存活用計画では、古くから守り、親しまれてきた風致景観を継承していくことを保存の基本としています。
- ・ 洗足池公園の風致景観を構成する要素は9項目あり、そこから連想される樹木(幹周90cm以上かつ該当樹種) 411本を景観構成重要木として設定しました。(下表参照)

景観構成要素(保存活用計画本編p.25)	選定に係るキーワード	重要木
①美しい水面とスカイラインを形成する池周囲の量感のある緑の景観	樹木の高さ	幹周90cm以上の樹木
②歴史を伝える中原街道から北側を望む景観	歴史、文化	シダレヤナギ、シダレザクラ、マツ、モミジ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、ヒバ、サワラ、クスノキ、モッコク、モチノキ(12種)
③三連太鼓橋とともに地域の歴史や文化を感じさせる風格のある景観		
④池のアクセントとなっている弁天島の景観		
⑤幕末の名士にまつわる史跡や文化財が創り出す景観		
⑥四季折々の美しさや多種多様な動植物と触れ合える景観	四季、眺望	サクラ、ウメ、ハナモモ、モミジ、ケヤキ、イチョウ、アカシデ、イヌシデ、コナラ、ミズナラ、クスギ、マテバシイ、シラカシ、スダジイ、アラカシ、ウバメガシ、コブシ、メタセコイア、ミズキ、エゴノキ、ハンノキ、ヤマブツ(22種)
⑦池の水辺を構成する多様な景観		
⑧桜山・松山など池周囲の小高い丘から見下ろす池の眺望景観		
⑨千束八幡神社や星頂山妙福寺が持つ歴史空間と豊かな緑の背景	歴史、文化	(②~⑤と同じ)

(3) 更新樹木

- ・ 外観診断(専門家が見た目や幹を叩いた音等で樹木の健全度を判定するもの)の判定とそれぞれの樹木の状態(例)を以下に示します。
- ・ なお、令和3年度外観診断調査では各判定の樹木本数が次のようになりました。

⇒ A判定65本、B判定152本、C判定186本、D判定8本



A判定
(ほぼ健全)

- (例として)
- ・ 枝、幹、根などに異常がなく、健全に生育している。
 - ・ 打音に異常(木箱を叩いたような音)がない。



B判定

- (例として)
- ・ 枝、幹、根などの一部に軽度の異常(腐朽、枯れ等)がある。
 - ・ 打音はおおむね正常。



C判定

- (例として)
- ・ 枝、幹、根などに枯れや損傷などの異常がある。
 - ・ 病変や腐朽、キノコの発生がある。
 - ・ 打音に異常がある。



D判定

(不健全)

- (例として)
- ・ ほぼ枯死しており回復の見込みがない。
 - ・ 腐朽や損傷が激しい。

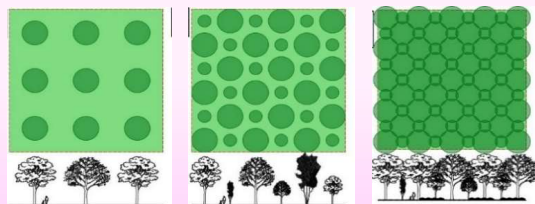
(4) 更新手順

- ・ 景観構成重要木の更新は、以下の手順に従い実施します。

(2) 基本的な考え方

- ・ 景観構成重要木の更新にあたっては、調査診断を行ったうえで判断します。
- ・ 景観構成重要木以外の樹木については、別途検討する洗足池公園マネジメント計画で検討するゾーン区分とゾーンごとのコンセプトに従い、更新を進めます。
- ・ ただし、樹木密度の調整が必要なエリアに関しては更新ではなく伐採のみとなる場合もあります。
- ・ 大木・老木は移植の困難なものも多いため、密度の調整は原則、傷んだ樹木の伐採(間引き)や補植で行う方針です。

樹林を上から見たイメージ ▶ エリアの利用形態や樹種によって理想となる樹木の密度は変わります。例えば、桜広場のような賑わいの空間では疎、桜山斜面のような静かな空間では密な樹林が求められます。適切な密度は樹形の美しい樹木を育てるためにも重要です。



- ・ 調査の結果保存が可能な樹木に対しては、土壌改良や支柱の設置など必要な処置を施し、樹勢回復・延命を目指します。

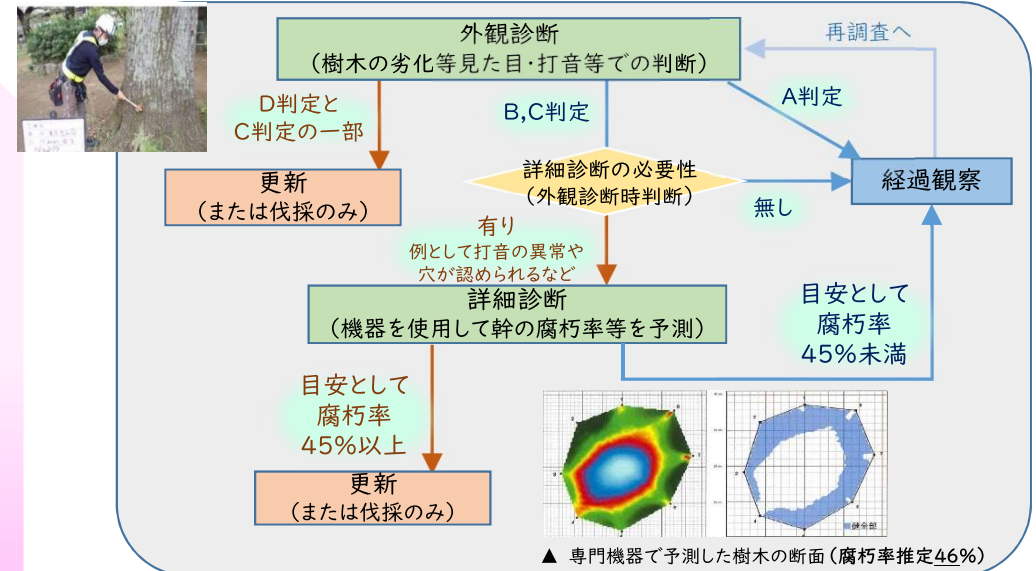
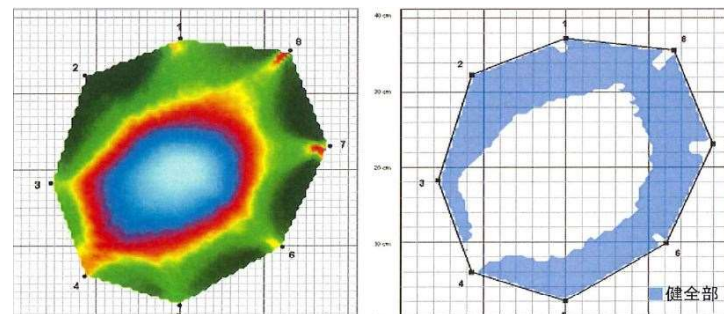


図2. 更新の判断目安となるフローチャート

景観構成重要木保全更新実施計画(案)について

(5) 更新スケジュール等

- ・外観診断においてD判定（不健全）となった樹木は、回復の見込みがなく、倒木の可能性も高まるため、**最優先で更新**します。
- ・また、C判定の一部についても、見た目で傷み具合が顕著なものは**順次更新**します。
- ・加えて、詳細診断において幹や根元の腐朽率が高く（目安として腐朽率45%以上）、専門家の判断で更新が推奨される樹木についても更新の対象とします。
- ・今回の診断で更新対象とならなかった樹木は、次期の計画更新時に再調査して更新の判断を行います。
- ・**当面（令和5年度～令和9年度）のスケジュールは下表のとおりです。**
（ただし、今年度の詳細診断結果次第では更新予定本数や樹種が変更になる場合があります。）



▲ 幹の腐朽率が推定46%の樹木の断面（専門機器による分析結果より）



▲ 腐朽率測定の様子

更新スケジュール表（令和4年10月時点）

対象樹木：D判定とC判定の一部

エリア番号	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①桜山	2本 (サクラ)	1本 (サクラ)	2本 (サクラ)	3本 (サクラ)	4本 (サクラ)
②桜山西側斜面	1本 (サクラ)	1本 (サクラ)	1本 (サクラ)	2本 (サクラ)	-
③松山	-	-	1本 (サクラ)	-	3本 (サクラ)
④弁天島			(なし)		
⑤池北側園路	-	-	-	-	1本 (サクラ)
⑥水生植物園東側			(なし)		
⑦水生植物園付近			(なし)		
⑧史跡広場周辺	1本 (スダジイ)	-	1本 (スダジイ)	-	-
⑨桜広場	1本 (サクラ)	1本 (サクラ)	1本 (サクラ)	1本 (サクラ)	2本 (サクラ)
⑩～⑬			(なし)		
⑭しだれ桜山	-	1本 (サクラ)	-	-	-
⑮～⑰			(なし)		
⑱公園休憩所周辺	-	1本 (シダレヤナギ)	1本 (サクラ)	-	-
⑲児童館周辺			(なし)		
⑳子供広場			(なし)		

